

報告書

令和6年11月18日（月）から19日（火）までセミナー参加、地元選出国會議員の方々との挨拶、情報交換に伺いましたので、下記のとおり報告いたします。

記

令和6年12月24日

美祢市議会

議長 荒山 光広様

新政会

会長

戎屋

荒山

三善

昭彦

光広

庸平

- (1) 目的 ①一般質問の向上と政策議会の基礎を学ぶ
②地元選出国會議員の方々との挨拶、情報交換
- (2) 日時 令和6年11月18日（月）、19日（火）
- (3) 主催 株式会社 廣瀬行政研究所
- (4) 講師 土山希美枝講師（法政大学大学院公共政策研究科教授）
- (5) 場所 アットビジネスセンター池袋駅前別館 803号室
- (6) スケジュール

▶11月18日（月）

10:00 山口宇部空港発

12:43 池袋駅到着

13:30 セミナー

政策議会と一般質問 議員と議会の「成果」を考える

17:00 セミナー終了

▶11月19日（火）

08:44 国会議事堂前駅到着

11:00 参議院議員会館

12:00 衆議院議員会館

17:30 羽田空港発

19:00 山口宇部空港発

【セミナー内容】

政策議会の一般質問（機能と手法）について「政策議会」の基礎理論として1 課題に対して目的・目標を持ち対応・対策すること。



2 自治体が政策・制度が良い状態で効率が高いこと

「一般質問の機能・手法」として

1 一般質問が機能しているか。

2 一般質問を機能させるための論点・争点。

3 一般質問の問いだし方 など（別紙参照）

【所感】

他市・町の事例を取り上げ説明されたことで参考となりました。土山教授による研修参加者の「政策議会の一般質問」（機能と手法）に対する疑問について、親切・丁寧に解説されることで、今回の研修目的が十分効果があつた研修となりました。

また一般質問の内容を構成するときに論点を整理する重要性を理解しました。論拠となる事実を積み立てることによって、自らの意見、主張を際立たせることができるので、今後の一般質問に活かして参ります。

また政策議会としての在り方にも学びがありました。一般質問と同様にどうすればまちがよくなるのか、そのために我々がすべきことは何かを追及することが美祢市の為、また美祢市議会が向上する要因だと認識しました。

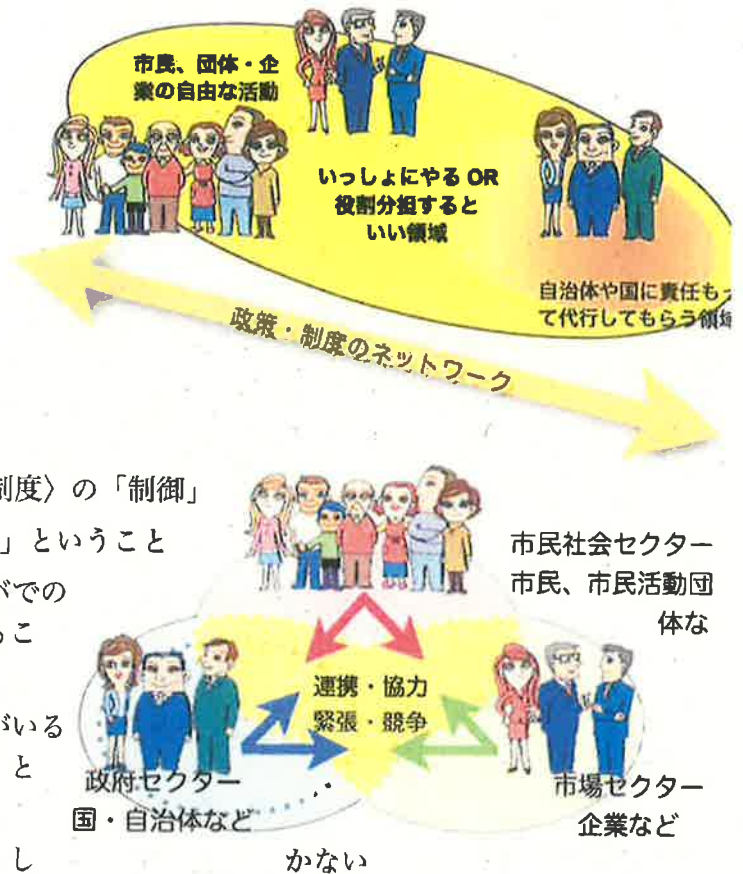


政策議会の一般質問 機能と手法を考える

法政大学 自由希美枝 kimiet@hosei.ac.jp

1. 「政策議会」の基礎理論

- 自治体は、「市民が必要不可欠とする〈政策・制度〉を整備するための機構」
 - 自治体の〈政策・制度〉とは
- 〈政策・制度〉を「よりよく整備する」が自治体の目標。議会・長はそのために種類の異なる権限を与えられた機構。
 - 信託は理念や空想ではなく、〈政策・制度〉がその成果物
 - 議会の成果
 - 議会という場でなされる〈政策・制度〉の「制御」
- 議会が「信頼を得る」「信託／負託に応える」ということ
 - 「わがまちの〈政策・制度〉を、ヒロバでの議論と決断によって「よい」状態にすること」
 - 「わがまちの〈政策・制度〉は、議会がいるから（行政だけより）よい状態である」という市民からの評価をえること
 - 「成果＝実績」と「認知」を高めていくし
- 自治体〈政策・制度〉が「よい状態」であるように信託された権限を使って「制御」する、政策主体としての議会→「政策議会」



2. 一般質問の機能と制度

- 議員にとって、議員が、自分の活動と知見を集約し、わがまちの〈政策・制度〉の争点を提起し、監査・提案できる機会
- 議会にとって、議会の一部である議員が行政の政策執行のありかたに監査・提案することで、自治体政策を間接的に制御する機会
- だが、十分に活かされていない。なぜか？

議会の5課題（松下圭一（1991）12章）

- (1) 政治争点の集約・公開
- (2) 政治情報の整理・公開
- (3) 政治家の選別・訓練
- (4) 長・行政機構の監視
- (5) 政策の提起・決定・評価

3. 一般質問はなぜ「機能していない」か

- ①一般質問「そのもの」の課題：残念な質問、もったいない質問
 - その質問は・「まちをよくする」ために・「問い質し」ているか？
 - 公表数字を確認するだけの質問／論点を入れすぎてぼけてしまった質問／一般質問としては個別的すぎる質問／合理的な根拠や論拠のない批判／国や県の政策や事業で市が関

- ・事業や計画なら現状の背後にある事業・計画のありかた／政策目的・目標との乖離／根拠となる法令・条例等の解釈や遵法性／行政運営のありかたなど
- ・具体化のために「事業」を意識する：自治体の〈政策〉は事業によって具体化される→その問題は、どの「事業」がある／ないために起こってるのか？
- ・感覚的な評価ではなく、根拠を
- ・〈政策・制度〉の現状について分析し評価する監査機能は重要。政策提案も、その前提としての監査があつてこそ
- ・とりあげる「現状」が「なぜ問題なのか」という問題意識（争点性）を伝える。「その状況がどういう意味で問題なのか」が伝わらないと、質問と答弁とがかみ合わないことがある
- ・政策提案機能（政策提案質問）
 - ・政策（とその具体化である施策・事業）について、そのありかたについて（新規の提案に限らず）改善や廃止も含めて提起する機能
 - ・新規の事業でなくとも、現状を変化させることは行政にとってコストが高い。それを超える「正統性」が必要。
 - ・なぜその提案が求められるか、コストがかかっても（新規事業なら他の課題に優先して資源を振り分けてでも）対応すべき正統性／実現可能性にたいする考慮（他自治体事例、予算や担当予定部署について）／実現のための戦略
 - ・「資源の制約」というハードルの前にある2つの段階
 - ・問題状況の共有／問題が自治体の課題領域にあることの共有

4. 機能する一般質問のために

(2) 〈争点〉を発見し、現状を「事実」でとらえ、分析するための情報収集

- ・「困りごと」の当事者、課題の現場を特定する。
 - ・現場で「聴く」ことの重要性
 - ・議員の2つの現場 ①課題の現場／②その課題に対応するはずの行政の現場
- ・政策をめぐる情報の類型とリソース（松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991,152-153）
 - ・①争点情報：いわゆるニュース的な〈状況情報〉、ウォッチャー型情報。
 - ・市政への議員の問題意識、市民相談、報道、他自治体の動向など
 - ・D-File（政策系情報の地方紙スクラップ）、日経テレコン（地方紙含むオンラインDB）、各紙データベースなど
 - ・文献情報に、図書館レファレンスやレファレンス共同データベース*
 - ・②基礎情報：調査・統計にもとづく〈分析情報〉、行政資料型情報。
 - ・自治体・国・公共機関の統計情報、地理・地勢・地図情報。争点にあわせた集約、分析。
 - ・eStat（政府統計のポータルサイト）、WARP（国立国会図書館インターネット資料収集保存事業）、条例Webアーカイブデータベース（同志社大学）、eLen（鹿児島大学）、RESAS
 - ・各都道府県で集積している情報
 - ・③専門情報：政策開発に必要な専門的知見といえる〈技術情報〉、個別科学型情報。

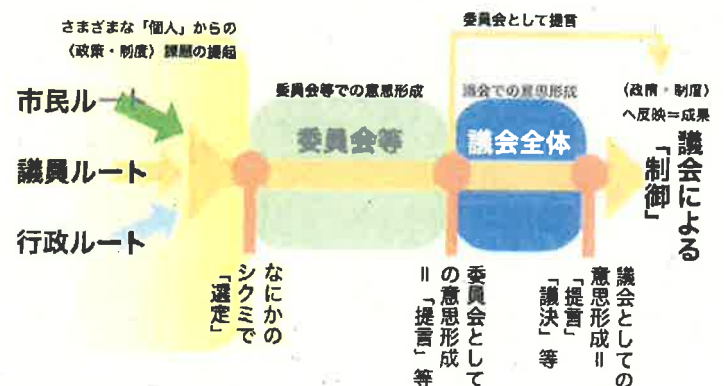
- ・一般質問を「議員ひとりのもの」にしないシクミ
- ・一般質問を「議員が共有するまちの課題」として実質的な議員間議論・対話に
 - ・「議会としてとりあげるべき質問」を委員会につなぐ
 - ・委員会の所管事務調査に（北海道芽室町、岐阜県可児市）
 - ・委員会代表質問の可能性（北海道別海町、滋賀県甲賀市（予定））
 - ・全議員参加の「一般質問検討会議（磨き上げ）」（北海道別海町）
- ・市民への市政の課題や論点の提供→市政と議会にたいする関心の惹起
 - ・新聞折り込みチラシや議会だよりでのPR（鷹栖町、傍聴者評価も）（美深町、別海町）
 - ・一般質問の「その後」を追跡（芽室町、昭和町）→議会だよりなどでの掲載
 - ・議員どうして選ぶ「今議会のベスト一般質問賞」

評価できる点 改善できる点		
木村議員 (全体)	中野議員 (全体)	高野議員 (全体)
1. 保育園運営支援 (1) ... (2) ...	1. 災害(人海)対応 (1) ... (2) ... (3) ...	1. 総合計画と財政 (1) ... (2) ...
2. 学童クラブ (1) ... (2) ...	2. 道水産調査の必要性	2. 事業評価結果検証 (1) ... (2) ... (3) ...



6. おわりに：政策議会の一般質問

- ・議会の「成果」としての「議会による〈政策・制度〉の「制御」」は可能か
 - ・政策課題（資源）流入の「議員ルート」としての一般質問
 - ・議会の政策過程という大きなシステムの一部としてとらえる
- ・〈争点〉の重要性
 - ・成果の源であり、議会というヒロバで扱われ、可視化され、議論される市民の「共有される関心・利益（res publica/commonwealth）」



参考文献

- ・【連載中】土山希美枝「ヒロバな議会でいこう」『議員NAVI』（第一法規）Webマガジン。／土山希美枝『質問力で高める議員力・議会力』中央文化社／土山希美枝『質問力でつくる政策議会』2017年8月、公人の友社。／松下圭一『政策型思考と政治』、1991年、東京大学出版会、とくに第9章、12章。